

コーパスで見る e-mail, email, text(ing)*

西垣内 泰介

神戸松蔭女子学院大学 言語科学研究所

gauchi[at]shoin.ac.jp

E-mail, email, text(ing) on the corpus

Taisuke Nishigauchi

Shoin Institute for Linguistic Sciences, Kobe Shoin Women's University

Abstract

コーパスは言語を研究する上で強力なツールであるが、たとえば英語を学習しないし研究するものにとって具体的にどのような使用法があるのか、学部が英語の学習に役立てることができるのかという観点でいくつかの具体例を提示する。ここでは「電子メール」を表す表現が electronic mail → e-mail → email と変化していること、「チャット」「メッセージ」を表す表現が名詞としての text message から複合動詞としての text message を経て text(ing) と変化していることを COCA の検索および Chart 機能を活用することで跡づけることができることを示す。

This short paper considers the ways in which the corpus can be utilized to shed light on some aspects of English grammar. Specifically, we show that the corpus has the potential of keeping track of the dominant ways of spelling “e-mail” shifting to “email”, in keeping with the regular way of shifting in spelling compound nouns. Also, we look at the history of “text(ing)”, which was originally a compound noun “text message” (as opposed to “voice message”), which came to be used as a denominal compound verb, finally shifting to “text(ing)”. We show that all this can be done by making use of simple search (List) and Chart features of COCA.

*学部の授業「英語コンピュータ特論 B」では、コーパスを使って英語学習に役立てるというテーマで授業を行った。学生にコーパスの使用法を教え、英語の学習に役立てる方策を提案したり指導する中で私自身新たに学ぶことが多かった。この文章は同授業から私自身が学んだ内容のまとめである。本研究の一部は、日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「「視点」にかかわる言語現象と理論言語学」(2018 年度～2022 年度、研究代表者: 西垣内 泰介、課題番号: 18K00599) による援助を受けている。

キーワード: コーパス, COCA, Chart 機能, 複合語, e-mail/email, texting

Keywords: corpus, COCA, Chart feature, compounds, e-mail/email, texting

1. はじめに

この文章では, Brigham Young University の Mark Davies によって開発, 運用されている COCA (Corpus of Contemporary American English) を用いて, コーパスをコーパス言語学という観点ではなく, 英語を研究, 学習する上で役立つ知的ツールとして用いる可能性を探っていききたい。

コーパスは言語を研究する上で強力なツールであるが, たとえば英語を学習ないし研究するものにとって具体的にどのような使用法があるのか, 学部が英語の学習に役立てることができるのかという観点でいくつかの具体例を考えてみたい。

2. e-mail or email?

2.1. electronic mail

インターネットが出現した初期の頃からあるのが「電子メール」である。これについてよく話題になるのが, e-mail とするか, email と書くかという英語での表記の問題である。

「電子メール」を表すもともとの英語表現は electronic mail である。OED (*Oxford English Dictionary Online*) は 1959 年ローカル紙掲載の記事からの用例をあげている。

- (1) Postmaster General Summerfield plans split-second electronic mail. (1959 *Appleton (Wisconsin) Post-Crescent* 2 Nov. A6/4)

しかし, さすがと言うべきか OED はここでの electronic mail は今「電子メール」と言われているものとは違うことを注意している。

- (2) The sending of image information by electronic means; *spec.* the facsimile transmission of documents as a public service. (画像情報を電子的手段で送ること。特に, 公共サービスとして文書をファクシミリ伝達すること。)

つまり手書きやタイプライターで作成した文書をコピーし, それを画像情報として電子的に送信されるものを electronic mail と呼んでいたということである。今で言う FAX のようなものではないだろうか。

FAX は文字などをあくまで画像イメージとして転送するもので, 今「電子メール」と呼んでいるものは文字データ (テキスト・データ) を基本的にはテキスト・ファイルの形でネットワークを介してやり取りするものである。現在の「電子メール」の原型とも言えるものは, 1971 年に技術者の Ray Tomlinson 氏が自分宛に出したものが最初と言われている。また, この時に @ をアドレスに使うという形式が確立したということである。(Swatman 2015) 次の OED の用例は 1975 年 *Business Week* からの引用だが, 50 年先のオフィスのあり方を予言している文として, 興味深い。

- (3) As word-processing terminals begin swapping electronic mail and reaching into central electronic files, the integrated office system will begin to look more and more like an electronic data processing system. (*Business Week* 30 June 82/1, 1975)

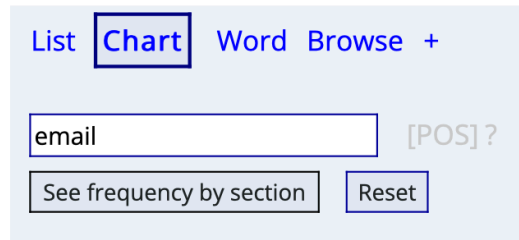
2.2. e-mail, email

この electronic mail の electronic が頭文字 e に短縮され、e-mail, email となったのだが、現代の英語でハイフンありとなしどちらがよく使われているか、COCA の単純検索でその生起件数をすぐに見ることができる。

- (4) e-mail 38,140
email 46,570

ということで、2020 年代の時点で明らかにハイフンなしがよく使われていることがわかるのだが、COCA にできることはそれだけではない。収録されている用例にはそれが使用された年が記されているのだが、COCA の機能として、その時系列によるチャートを表示してくれるのである。これを活用するには、検索のページで次のようにする。

図 1: Chart 機能を使う

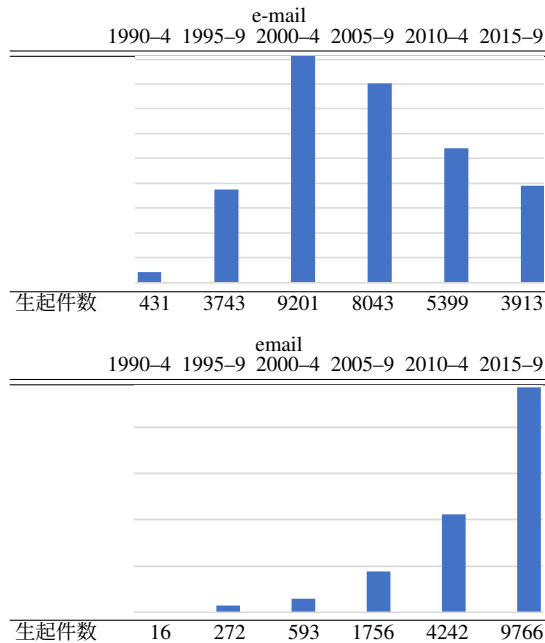


検索窓の上の **Chart** をクリックし、下の **See frequency by section** をクリックする。この機能を用いた結果得られるチャートが図 1 (p. 48) である。

チャートから明らかにわかることは、e-mail は 2000–2004 の 9,201 件をピークに減少傾向にあり、一方 email はその 2000–2004 にはわずか 593 件だったが、2015 年以降は email が支配的に使われているという実態である。

おおざっぱに言うと electronic mail → e-mail → email という流れがあるのだが、これは言語学で言う「複合語」(compounds) である。「複合語」は語と語が結びついて新しい語を作る、「語形成」のプロセスのひとつである。たとえば a black board は形容詞 black と名詞 board が結合した「句」(phrase) をなす表現であり、黒い板であるが、a blackboard はあくまで 1 語であり、学校にある「黒板」を意味する。「黒板」はその最初の頃は文字通り黒い板だったのであるが、今の「黒板」は黒い板ではなく、むしろグリーンに近い色

表 1: Chart 機能で見る e-mail, email の推移



が連想されるのではないだろうか。また、発音に関しても句表現 *black board* は後の名詞にアクセントを付けて発音するが複合語 *blackboard* は前にアクセントを付けて発音する。

e-mail, *email* はともに複合語なので、発音は *é-mail*, *émail* である。話がそれるが、iPhone が日本で初めて導入された当時、独占的に扱っていた携帯電話会社の広報の方が iPhone 普及のためのセミナーで「アイフォン」ではなく「アイフオン」とおしゃれに呼んで欲しいと語っていたが、前者の方が英語に近い発音ではある。iPhone も複合語なので、iPhone である。

複合語はその表記に関して、次の3つのあり方がある。

- | | |
|------------|---|
| 語と語の間にスペース | <i>living room</i> , <i>high chair</i> , <i>snail mail</i> , etc. |
| 語と語の間にハイフン | <i>chain-smoker</i> , <i>red-hot</i> , <i>icy-cold</i> , etc. |
| 区切りなし | <i>bathroom</i> , <i>overdose</i> , <i>scarecrow</i> , etc. |

これらの例は言語学のすぐれた入門書のひとつである Akmajian, Demers and Harnish (1984) からのものだが、Akmajian, Demers and Harnish (1984, p. 27) は、この表記上のヴァリエーションについて次のように説明している。

The hyphen is used when a compound has been newly created or not widely used; when a compound has gained a certain currency or permanence, it is often spelled closed up, without the hyphen. (複合語が新しく作られた場合、まだ広く用いられていない場合にはハイフンが用いられる。ある程度普及し、永続的なものとなると、ハ

イフンなしでくっつけて綴られる。)

この記述からすると、上で見た e-mail → email の流れは英語の複合語としてごく普通の表記上の変化を比較的短期間の間に見せていることになる。

Akmajian, Demers and Harnish (1984) によって、語と語の間にスペースがある複合語の例として挙げられている high chair, 子どもが食事をするのに助けるために座面が高くなったイスのことだが、これは同書が出版された 1980 年代前半の一般的な表記であると思われる。

COCA で 3 つの表記法について検索してみると、つぎのような結果だった。

high chair	high-chair	highchair
305	27	111

生起件数がいずれも少ないので何とも言えないが、スペースありの high chair がやはり 1 番よく使われている一方、highchair も使われていることを示す結果である。

このように、コーパスは文法書や言語学のテキストなどに記述されていることについて、実例の面で検証することを可能にしてくれる。

2.3. 動詞としての e-mail, email

「電子メール」を表す e-mail, email は名詞だけでなく動詞としても用いられる。

(5) a. Please phone or e-mail the media contact listed above to arrange an interview.

b. Feel free to email me or send me a Facebook message.

通常は名詞として用いられる表現がもとになって、その後動詞として使われるようになると考えられるというのは、広く見られる現象である。例えば bottle という名詞があって、Bottle the wine. (瓶詰める) のような動詞としての用法が出現すると考えられる。このようにある語が異なった品詞で用いられることを言語学では転換 (conversion) と呼ばれる。特に bottle のように名詞から動詞としても用いられるようになるものを denominal verbs (名詞からの転用動詞) と呼ばれる。

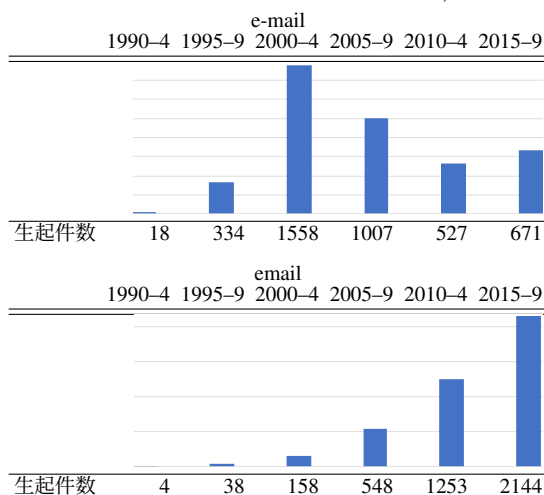
一方、COCA は検索する項目の品詞を限定して検索することを可能にしてくれる。動詞としての email を検索したければ、検索窓に [email].[v*] と入力する。このように検索して得られた動詞としての e-mail, email の生起件数を (4) で見た e-mail, email の総生起件数と対比し、動詞としての生起件数 (V 生起件数) を総生起件数に対する割合を出してみたのが次の表である。

(6)	総生起件数 (Y)	V 生起件数 (X)	X/Y (%)
e-mail	38,140	4,951	10.63
email	46,570	7,878	16.91

e-mail, email それぞれが用いられる中で約 11%, 17%が動詞であるということが COCA の単純検索で示される。

このような動詞としての e-mail, email は「名詞からの転用動詞」というラベル付けにふさわしいものなのだろうか？ つまり, bottle の場合は名詞として使われていた bottle が次第に動詞としても使われるようになったのだろう, ということが直感的に想像できる（これが本当かどうかは読者に調べてほしい。）が, e-mail, email の場合そうなのだろうか？ E-mail, email は最初名詞としてのみ使われていて, 次第に動詞としても使われるようになったのだろうか。この疑問は, 動詞としての e-mail, email について COCA の Chart 機能を用いることでその答えを得ることができるのだろうか。表 2 は COCA のチャート機能によって動詞としての e-mail, email の生起件数を時系列で示す。

表 2: Chart 機能で見る動詞としての e-mail, email の推移



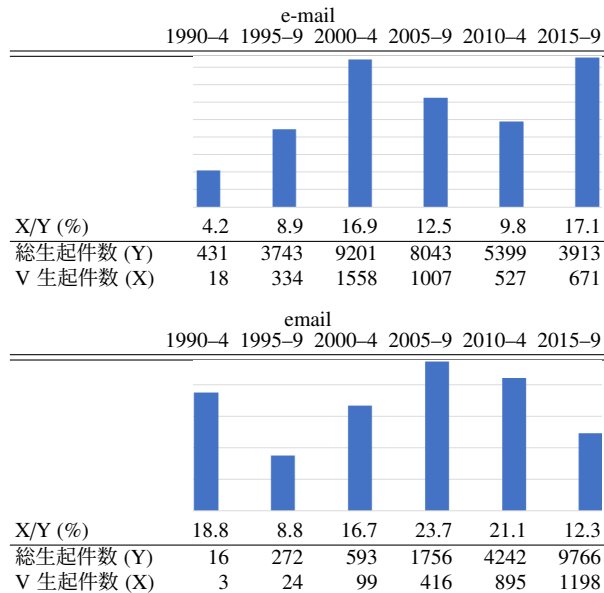
この表は, e-mail, email の総生起件数の推移を示す表 1 と並行した推移の動きを示しており, 名詞としての e-mail, email が動詞として使われるようになるという推移があるのか, ないのか何も示してくれていないように思われる。

そこで, 表 2 で得られるそれぞれの期間における e-mail, email の動詞としての生起件数 (V 生起件数) を表 1 で得られるそれぞれの期間における e-mail, email の総生起件数で割って見たらどうだろう。各期間における動詞としての生起件数の, 総生起件数に対する割合がわかるはずである。図 3 (p. 51) がその結果である。

このチャートによれば, 動詞としての e-mail, email はそれぞれ 2004 年, 2009 年をピークに確実にその割合を増加させた時期があったことが示されているように思われる。email の 1990-94 の値が高いように見えるのは, もちろん分子分母ともに数値が低いからである。

動詞としての e-mail, email がその割合を増加させたということはこれまでの考察からわかったと言ってよさそうなのだが, e-mail という語が一般的に使われ始めた時期, 名

表 3: 動詞としての e-mail, email



詞としてのみ使われていた時期があったのか、最初から動詞として少ないながらも使われていたのか、という疑問は残る。1980年代の用例データが体系的に集まれば、この疑問に対する答えが得られるのかも知れない。

3. Text me

本書を執筆している2022年の時点で、e-mail/emailはすでに過去のメディアとなりつつあり、「メール」を使うというのは、ビジネス関連の場面に限られてきている。友人どうしのコミュニケーションに用いられるのは、電話以外で言えば、スマートフォンでのSMS (short message service) やソーシャルネットワークメディアが提供するチャット機能を利用する、英語で言うtextingが一般的なものである。

「英語で言うtexting」という言い方をしたが、これだけ普及しているにもかかわらず、日本語ではSMSやチャットを指す一般的な表現がないようである。もっともよく使われているようなのが「LINE (ライン) する」という言い方で、代表的なSNSのチャット機能を指す。しかし、「LINE (ライン) する」がすべてのtextingを指すわけではなく、AppleのiMessageを使う人が「LINE (ライン) する」とは言わないし、かと言って「メッセージする」という言い方も定着していない。今のところ、「メールする」というのが、「LINE (ライン) する」も含めたtextingを指す表現のようである。

3.1. 動詞 text

その英語の *texting* だが、これは主に名詞である *text* が比較的最近 まったく新しい意味を持って動詞として使われるようになったひとつの顕著な例である。まったく新しい意味というのは、*text* の動詞としての用法としては「テキスト化する、資料化する」という意味では以前から使われていたからである。

- (7) History is texted not only through the content of documents and images but also through the contexts and histories of their preservation and use; attributed meanings adhere and become part of that history. (1997, *African Arts*)

この文は COCA に収められている、1997 年に *African Arts* という学術専門誌に掲載された論文からの文だが、動詞としての *text* の意味に踏み込んだ内容で、しっかりと読む価値がある。

History is texted があとの not only through X と but also through Y につながっており、「歴史が *text* されるということは、X だけでなく Y によることでもある。」X = the content of documents and images (文書や画像の内容), Y = the contexts and histories of their preservation and use (それら (文書や画像) を保存・利用することの事情・文脈やそれに関わるできごとなど); attributed meanings ((その保存・利用の過程で文書や画像に) 帰される意味が) adhere and become part of that history. (定着しその歴史の一部となる。)

つまり歴史が *text* されるというのは「テキスト化する、資料化する」という訳語で単純に表されるのではなく、資料となる文書・画像の内容だけでなくその資料を保存・利用することに関わることがらも *text* されることの中にも含まれる ということである。

3.2. Text message → text messaging → text message

(7) の内容が興味深いので横道にそれてしまったが、メッセージを表す *text* に話を戻そう。今使われている *text* は、いきなり動詞として使われたのではない。それに先だって voice message (voicemail) つまり音声によるメッセージ、留守番電話 (answering machine) や音声応答システムに用いられるテクノロジーがあり、その voice message に対する *text message* があった。Text message は文字からなるメッセージを指す名詞だが、*text message* を送信して一般的に利用することを可能にするサービスを *text messaging (service)* という。

次の例文は COCA に収められている、1990 年の映画のシナリオからと思われる *text messaging* を含むものである。

- (8) a. That's, like, when you use your cell phone to send, like, you know, words. Yeah. I know what text messaging is.
b. And according to her good friend, she preferred text messaging to leaving voice messages.

言語学的に言うと、ここに見られる *text messaging* は *text* と名詞としての *messaging* からなる、あくまで名詞である。ここでの *text messaging* が名詞であることは、この表現

が (8a) では主語として働いており, (8b) では prefer の目的語として働いているということで根拠づけられる。

名詞としての text messaging から, 動詞としての text message として用いられる段階があったというかあると考えられる。実際そのような例文があるのかということは, COCA の検索ボックスに `text [message].[v*]` と入力して検索する。 `[text message].[v*]` と検索しても syntax error と見なされる。品詞を指定した検索は 1 語を含む表現に限られる。

`text [message].[v*]` で検索した結果は次のものである。

表 4: `text [message].[v*]` で検索した結果

text messaging	118
text messaged	14

残念ながら現在形ないし原形の text message, 3 人称単数の text messages はこの検索では得られなかった。だからといって text message が現在形で使われていないということはない。表 4 の結果は COCA の側のデータへのタグ付けなどの不備によるものである。品詞による検索ができなくても, 原形, 現在形の text message を見つけ出す方法はある。これについては, 後で説明する。

表 4 の結果で得られた text messaged を含む例はわずか 14 件だが, いずれも間違いなく動詞としての text message の過去形ないし過去分詞形である。

- (9) a. On the train to work people slept, read, text messaged, phoned, talked or listened to music. (2012)
- b. In the past three months I have spoken to and text messaged Danny Whiteley, ... (2012)

(9a) では slept, read, phoned など動詞 (句) と並列して用いられている。(9b) では spoken to と並列してあとの Danny Whiteley を目的語とする, 他動詞としての働きをしている。

Text messaging を含む例は 118 件あったが, ここで心しておかなければならないのは, COCA の品詞分類タグ付けはかなり不備なところがあり, ここで動詞の ing 形とされているものの中には (8) のような名詞としての text messaging がかなり紛れ込んでいる。COCA の不備という面もあるが, 英語動詞の ing 形には多様な側面があって, 英語学や英文法の専門家でも見分けるのは簡単なことではない。次の例文は `text [message].[v*]` で検索して text messaging つまり動詞としての text messaging の検索結果の冒頭の 6 件を並べたものである。下の説明を読む前に, それぞれについて動詞の ing 形であるという基準に合格するものか検討してほしい。考えるヒントとしては, (i) 意味の上から主語と言えるものがあるか, (ii) 目的語をとっているかなどである。

- (10) a. I got Sam's cell phone and was text messaging her while I was at the theatre. (2019)
- b. The Vallas campaign did not respond to questions posed by the Sun-Times on Thursday about their use of text messaging to reach voters, but did provide a statement: ... (2019)
- c. What you see is him text messaging on the phone the entire night. (2018)
- d. Text messaging that connects teens with sexual health educators is effective for delivering sexual health information, (2015)
- e. Craig, a Spanish major, said he often uses Facebook and text messaging to communicate with friends. (2015)
- f. Text messaging by teens and college students has also attracted recent attention from both, researchers ... and commentators (2014)

(10a) の text messaging は動詞の進行形と言えるもので、主語が I であり、目的語に her がある。(10b) は their use of の後に使われており、text messaging service を補って読むことができるので、メディアを表す名詞としての用法である。

(10c) はちょっと高度な言語学・英文法に関わる事項が複数関わっているので、パラグラフを改めて説明したい。まずこの文は what ~ is X といういわゆる「分裂文」(cleft sentence) の形を持っている。She is eating an apple. の an apple を強調というより「焦点」(focus) としたい時 What she is eating is an apple. となる。What ~ is X の X を占めるのが焦点である。(10c) で、この X の位置を占めているのが him text messaging ... であり、him だけと考えるのは誤りである。この文は

- (10) c'. You see him text messaging on the phone the entire night.

の下線部が分裂文 What you see is X の X の部分を占めているものである。この文は知覚動詞 see を中心とした「知覚構文」で、(10c') の下線部全体が see の目的語のように働いている。知覚動詞 see の知覚対象は him ではなく、him text messaging ... 「彼が夜通しテキスト・メッセージしている」ということからである。この下線部は言語学的に言えば「節」(clause) をなすものであり、その中心となっているのが text message という動詞、その ing 形である。

(10d) では text messaging の直後に that で始まる関係節がつづいているので text messaging の品詞を問われれば名詞ということになるが、文全体の述語が is effective for delivering ... となっており、delivering の意味上の主語は sexual health educators と考えるのが妥当ではないかと思われる。ここから、text messaging の意味上の主語も sexual health educators ないし彼らを含む集合と考えることができる。このような意味上の主語を内在している text messaging は動名詞ないし動名詞から派生する名詞 (gerundive nominal) と考えられる。動名詞は品詞を問われれば名詞と言わざるを得ないが、働きは動詞なので、コーパスでの品詞によるタグ付けにとってはよく考えるべき課題ではないだろうか。1つ飛ん

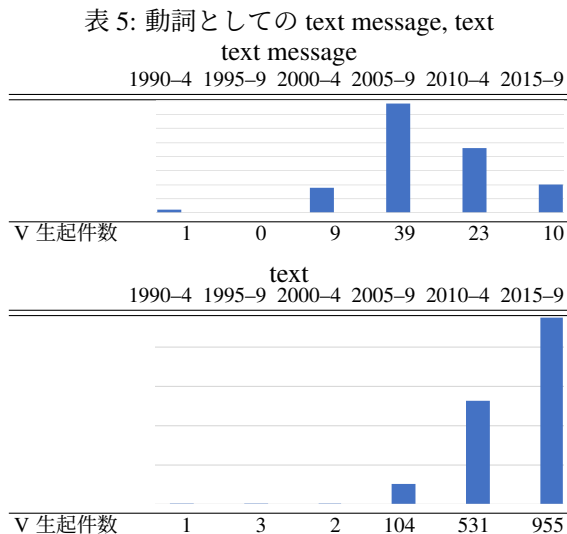
で (10f) では *text messaging by teens and students* と *by ...* によって主語ではないがそれをする人（行為者）が明示されているので、(10d) と同じく動名詞である。(10e) では *text messaging* が Facebook と *and* で結ばれており動詞 *use* の目的語であってメディアを表す名詞である。

3.3. Text message → text

生起件数は多くないものの、*text message* という動詞が存在した、ないし存在することを前節で見てきた。この動詞としての *text message* が現在よく使われている動詞 *text* のもたになっていると考えられる。形式としては、複合語 *text message* の *message* が消去された、発音されなくなったと考えられる。

動詞としての *text message* は *Oxford Learner's Dictionary* では *text-message* と表記している。上で引用した Akmajian, Demers and Harnish (1984) の複合語の表記についての一般化からすると自然な流れということかも知れない。しかし、*text-message* を COCA で検索すると 72 件しかヒットしない。品詞による検索も受け付けてくれないので、ざっと目視してみたところ動詞としての用例は半数に満たないものだった。過去（分詞）形 *text-messaged* で検索しても 16 件のみだった。今のところ、*text-message* は *text message* の表記上のヴァリエーションと考えてよさそうである。

COCA の Chart 機能を用いて、動詞としての *text message*, *text* の生起件数の時系列による分布を表示したのが表 5 である。



動詞としての *text message* の生起件数が少ないので確かなことは言えないが、このグラフで見るかぎり、*text message* の生起件数が 2005-9 年の間にピークとなっており、この時期に *text* の生起件数の増加が始まっている。この時期に *text message* → *text* の入れ替わりがあったと考えてよいのかも知れない。

まず複合語名詞としての (voice message に対する) text message があり, それを配信するサービスを表す複合名詞 text messaging があり, それを利用することを表す動詞 text message が用いられるようになった, さらにその message が消去されて動詞 text ができたという道筋が考えられる。

あくまで text messaging という名詞があって text message という動詞があるのだが, これは形の上では babysitting, babysitter があって babysit という動詞が存在することと似通っている。通常は動詞に -ing, -er など接尾辞がついて名詞ができると考えられるが, babysit の場合は先に babysitting があってそこから接尾辞を「失って」動詞ができるので, 通常 inverse の逆ということで「逆形成」(backformation) と呼ばれる。名詞の text messaging → 動詞 text message はこの「逆形成」のケースと考えられる。

この text messaging → text message → text という道筋に似ているのが「校正」を表す proofreading → proofread → proof である。まず proofreading / proofreader という名詞があり, それをすることを表す proofread という動詞が生まれ, read が省略されて proof という動詞が存在する。

動詞としての proof の実際の用例は COCA で [proof].[v*] と検索することで proof, proofing, proofed で 400 件以上ヒットするが, 実際にリストされる原形・現在形のつものの proof は大部分名詞としての proof である。それでも「校正する」意味の proof が用いられていることが次の用例からわかる。

- (11) a. One of the downfalls I often experience is not having someone else proof my work.
 b. You would think they would proof the books **after** formatting, but they often don't seem to bother.
 c. I showed up at office hours hoping to chitchat when the teacher was proofing his dissertation.
 d. The final, complete daily manuscript (computer generated) is proofed and presented to the Parliamentarians for review.

参考文献

- Akmajian, Adrian, Richard A. Demers and Robert M. Harnish (1984) *Linguistics, Second Edition—An Introduction to Language and Communication*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
 Swatman, Rachel (2015) 1971: First ever email. *Guinness World Records*, <https://www.guinnessworldrecords.com>.

Author's web site: <https://researchmap.jp/KelKroydon/?lang=japanese>

(受付日: 2023 年 1 月 10 日)